

食料、コメと空心菜だけ…

ミャンマー 被災地はいま



①配給物資に並ぶ被災者ら②被災地で診察する日本人医師③いずれもジャパンハート提供



救援活動中の日本人医師に聞く

【バンコク＝柴田直治】5月初めにサイクロンに襲われたミャンマー(ビルマ)の被災地ではコメこそ確保できるようなったものの、心の傷を抱える多くの住民には満足な家も副食も生計の道もなく、展望の見えない状況が続く。復興格差も目立ち始めた。長期の救援活動に取り組む日本人医師に被災地の現状を聞いた。



大村和弘医師

最大都市ヤンゴンと被災地のイラワジ川河口のボガレイ間を中心に診療活動と食糧や



被害が激しい地域

薬品の配布を続けるNGOのジャパンハートの大村和弘医師(28)が約1カ月ぶりに査証更新などのためにバンコクに来た機会に話を聞いた。
人々が道路に並んで物資を待つという状況はなくなり、食糧は現在、一応確保できている。だが被災後2カ月余、ふつうの住民が食べているのはコメと湿地に自生する空心菜だけ。救援物資の届きにくい地域では、塩水につきり、カビの生えた備蓄米しか口にできない住民が多い。
ほぼすべての家が倒壊したが、板を組み立てた簡素な造りのため支柱で支えて建て直した家が多い。雨を完全に防ぐ屋根は少なく、夜間の雨では寝ていられないという。屋根をふくヤシの葉などを

買うには3千円ほどが必要。だが田が冠水し小作人には仕事がないため、まかなえない。漁民もほとんどが舟や網を失い、漁ができない。テレビに映った被災地には外国の援助機関から物資が殺到する半面、道が寸断されているなどの事情でほとんど手つかずの地域もあり、時間がたつにつれて差が広がる。
大村医師は、5月11日に現地入りした安井佑医師(28)や多数のミャンマー人のボランティアらと検問のない早朝にヤンゴンを出て被災地を訪問する。拠点は各地の寺。前日に知らせると住民が並んで診察を待っている。
重傷者を手術し、ヤンゴンの病院にも運んだ。各地の助産婦に薬を渡し、診療後の様子を観察してもらう。感染症の流行は今のところ起きていない。家族を失った被災者が多く、動悸を訴えるなど心的外傷後ストレス障害(PTSD)とみられる症状も多い。きりぎりしの生活をしていて

人たちを襲い、家や家族を奪った災害。被災者は借金や援助、お互いの助け合いで何とか生きていく。大村医師らは住民に質問票を渡して家族ごとの状況把握に努めている。「将来を見通せない人ばかりだからこそ、状況にあわせた支援を進めたい」と話す。

支援20億円分 上乗せし要請

国連、各国に

ミャンマーのサイクロン被害について、国連は10日、すでに国際社会に要請している緊急支援に約3億ドル(約320億円)を上乗せし、総額4億8180万ドルの拠出を呼びかける支援要請を発表した。対象期間は09年4月までで、食糧や水の供給のほか、農業復興などに充てられる。

国連は5月の被災直後に半年分として1億8700万ドルの支援を要請。この分は各国の拠出でほぼ全額が集まった。(ニューヨーク)

ミャンマーの台風被災地に救ひの手を

現地で医療奉仕の青年医師、バンコクで訴へ

ミャンマー海岸部を襲った五月のサイクロン被害から二か月余、医療奉仕活動のためタイから現地入りした大村和弘医師（二八歳）が七月十日、ひと月ぶりにビザ更新などのためにバンコクへ戻り、スマタ・カルチャー・センターで記者会見して被災地の現状を報告した。

「倒れた木、茶色い土、道路で食料を待つ人々」といふ光景が「海水の混る田に稲を植える人々、緑の田園風景」に変わり始めようとしているといふ。

しかし、テレビに映った被災地には外国の援助機関から物資が殺到する半面、道路の寸断などで手付かずの地域もあり、救済面での格差が広がっている。大半の住民にとって食べ物はぎりぎりの量の米と湿地に自生する空心菜だけ。海水をかぶって変色したわづかの米を粥にして食べつなぐ人々もある。

死者・不明十四万人と言はれる突然の大津波で親や家族、働き手を失くした子供たちも多い。塩害で田植えのできない地域、舟や網が流され漁のできない漁民ら、援助を待つ人が大勢ある。

NGOジャパンハートに所属する大村医師は、相棒の安井佑医師（二八歳）、数人の看護師、ミャンマ

ー人ボランティアとチームを組み、約三十の農漁村を回つてゐるが、今後は土地の住民に質問表を渡し、個々の村民の状況に応じた、キメの細かい援助をして行きたいと言ふ。

ジャパンハートが五月十一日から一月半の間に行つた援助は、米六八〇俵、インスタントラーメン一三〇〇袋など総額四百万円弱。この中には出発前にタイで募金した約五十万円も含まれる。

大村医師は東京慈恵会医科大学卒業後、千葉県内の病院に勤務、昨年ジャパンハートに入り、今年四月からバンコクのマヒドン大学で熱帯病の勉強をしてゐたが、五月のサイクロン災害を機に、ミャンマーでの医療奉仕活動に合流した。といつてもミャンマーへの入国は難しく、ジャパンハートと提携する現地の寺院の助けで何とか可能になった。

今回はタイでの募金するための銀行口座開設も目的の一つで、口座番号は以下の通り。

KASIKORNBANK Branch: SUKHMVIT 33
Account: 003-2-31845-4 Name: MR. KAZUHIRO
OMURA

また現地での活動報告ブログのアドレスは以下の通り。

http://blog.livedoor.jp/m_cyclone/

写真は①ミャンマーの孤児院で診察する大村医師
②日焼けして逞しくなった大村和弘医師Ⅱいづれも
同医師提供
(編集部・D)